

角膜カンファランス 2021 日本角膜学会学術奨励賞記念講演

【氏名】福岡詩麻

【所属】大宮はまだ眼科西口分院、東京大学医学部附属病院眼科

【演題名】

形態・機能解析を用いたマイボーム腺関連疾患の病態解明および治療効果の評価

【英語演題名】

The pathology and the therapeutic effects of meibomian gland-related diseases

【ショートタイトル】

マイボーム腺関連疾患の研究

Meibomian gland-related diseases

【本文】

マイボーム腺は涙液油層を分泌し、涙液蒸発抑制、涙液安定性維持に重要な役割をはたしている。近年、非接触型マイボグラフィによりマイボーム腺形態の観察、インターフェロメトリー法によりマイボーム腺機能である涙液油層の評価が非侵襲的に可能となった。我々は、マイボーム腺機能不全 (MGD) の眼瞼縁所見とマイボグラフィによるマイボーム腺形態の Grading を作成 (AJO, 2016)、定量的インターフェロメトリー法により涙液油層厚を測定、定性的インターフェロメトリー法により涙液光干渉像を観察し涙液安定性を評価することで、マイボーム腺関連疾患の診断、病態解明、治療評価に応用し新しい知見を得てきた。

マイボーム腺関連疾患の病態としては、霰粒腫術後眼でのマイボーム腺形態変化、涙液安定性・視機能への影響 (Clin Ophthalmol, 2017)、コンタクトレンズの眼乾燥感と涙液油層厚の関連 (ECL, 2017)、中学生でもマイボーム腺の形態変化がみられること (Cornea, 2017)、涙液の水と油には負の相関があり涙液にもホメオスタシスがあること (IOVS, 2016) を明らかにした。先天性無痛無汗症では涙液の蒸発が亢進している (AJO, 2006) が、ホメオスタシスの維持が困難な可能性がある。平戸度島スタディでのリスク因子や年齢別有病率の違いから、MGD とドライアイは似て非なる疾患であると判明した (AJO, 2019)。

治療に関しては、ジクアホソル点眼 (TOS, 2017, Sci Rep, 2019)、Intense Pulsed Light 治療 (Cornea, 2018, TOS, 2019)、アジスロマイシン点眼 (ECL, 2020) で、涙液油層厚と涙液安定性が改善することを明らかにした。

今後さらに、マイボーム腺関連疾患の病態解明と治療効果評価についての新知見を実臨床に応用できる研究を進めて行く予定である。

【略歴】

- 2003 年 東京大学医学部卒業
- 2005 年 東京大学医学部医員
- 2009 年 Mount Sinai School of Medicine, Department of Ophthalmology, Research
Fellow
- 2009 年 Weill Cornell Medical College, the Margaret M. Dyson Vision Research
Institute, Fellow
- 2011 年 東京共済病院医員
- 2011 年 東京大学医学部研修登録医
- 2013 年 東京大学医学部臨床登録医
- 2015 年 東京大学医学部登録診療員
- 2016 年 大宮はまだ眼科西口分院院長 現在に至る
- 2020 年 東京大学医学部病院診療医 現在に至る